

1 本年度の教育目標

ともに考え ともに伸びる

2 本年度の重点目標

○90分以上の家庭学習の習慣化 ○よりよい人間関係づくり ソーシャルスキルの向上 ○学校へ行こう 来校者の増加

3 評価結果

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価指標	達成状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価		
基礎・基本の徹底 90分以上の家庭学習の習慣化	週末課題の提出率100%を目指す。	週末課題を計画的に出題する。	週に5ページ(国・数・英)以上のデータベースを活用する。	データベース活用度	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎週計画的に出題できている。提出率もほぼ100%である。データベースの活用という点ではやや課題がある。 ・ドリルタイムは学年部職員でほぼ毎日取り組めた。質問教室は、定期テスト前には実施できた。 ・ノーマディアウィーク、親子で家庭学習も計画通りに実施できた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・町確認テストにおいて、中間層と上位生徒に伸びが見られている。下位生徒への指導を充実させる必要がある。 ・学習塾に行かなくても学力を保障できる学校をセールスポイントに。経済的に余裕があまりない家庭が多いなか、公教育で学力を保障するのが望ましい。 ・週末課題の提出率100%が家庭学習の習慣化につながっているのではないかと。毎日のドリルタイムの積み重ねがきつといい結果につながる。 ・親子で家庭学習は賛否両論あるが継続、習慣化してほしい。時事問題も親子で議論もいと思う。 ・教師・生徒・保護者で取り組む共通のテーマとして設定しての取組が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ達成できている。3年生は受験があるので全員が達成できるとよい。 ・学習塾に行かなくても学力を保障できる学校をセールスポイントに。経済的に余裕があまりない家庭が多いなか、公教育で学力を保障するのが望ましい。 ・週末課題の提出率100%が家庭学習の習慣化につながっているのではないかと。毎日のドリルタイムの積み重ねがきつといい結果につながる。 ・親子で家庭学習は賛否両論あるが継続、習慣化してほしい。時事問題も親子で議論もいと思う。 ・教師・生徒・保護者で取り組む共通のテーマとして設定しての取組が求められる。 		
	正答率50%未満の下位生徒の割合10%未満を目指す。	ドリルタイムを学年部職員全員による指導で充実させる。	毎日、帰りの学活前に実施する。質問教室を月に2回以上、定期的開設する。	実施回数					2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者は協力的で、定期テスト期間中は、学習環境を整えようとするなど関心が高まっている。引き続き取り組みを継続し、習慣化していきたい。
	90分以上の家庭学習をしている生徒の割合85pt以上を目指す。	定期テスト前のノーマディアウィークや親子で家庭学習を保護者と協働し取り組む。	学期に2回ノーマディアウィークを実施する。月に1回「親子で家庭学習」を実施する。	実施回数					4	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者は協力的で、定期テスト期間中は、学習環境を整えようとするなど関心が高まっている。引き続き取り組みを継続し、習慣化していきたい。
よりよい人間関係づくり ソーシャルスキルの向上	学校が楽しいと感じる生徒の割合85ptを目指す。	生徒主体による行事を充実させる。	生徒集会や生徒会行事を月1回以上実施する。	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の生徒集会が定着し、生徒会活動が活発になってきた。給食前の「食育」指導も生徒の活躍の場となっている。 ・調査期間を限定した「いじめアンケート」が実施できた。その結果をもとに教育相談を行い、改善につなげている。 ・学級活動でも自己有用感を高めようとする取り組みが組織的、計画的に行われている。 ・「学校が楽しい」 全体89pt ・「いじめのない学級づくり」 全体96pt ・「互いに励まし合い高めあう」 全体95pt ・「互いに励まし合い高めあう」 全体95pt ・「互いに励まし合い高めあう」 全体95pt ・「互いに励まし合い高めあう」 全体95pt 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の肯定指数は目標値を上回っているが、数値の低い学年もある。 ・アンケートに対してC、Dの評価する生徒に対する支援を強化する必要がある。 ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)を計画的、組織的に取り組み、自己有用感の向上につなげることも課題となる。2学期に計画されている体験的な学習の目的を明確にして取り組んでいくことが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ達成できている。2年生のポイントが低いこと驚いた。改善できるようにしていきたい。 ・少人数なので全員に目が行き届きやすいため、ややおとなしく、保守的、従順すぎる面もみられる。一般社会人となり複雑で多様な人間関係に直面しても対応、従順できるコミュニケーション能力と逞しさも少しずつ育てたい。 ・いじめアンケートの結果をもとに教育相談を行っていることを継続してほしい。アンケートの「成長したこと」では全学年とも自分が成長したことをみつけられている。アンケートにて否定的な回答が少なくないことが気にかかる。少しでも楽しく学校生活を送れるようになればと思う。 ・時事問題「このストレス・親のストレス」を話し合ったらどうか。 		
	いじめのない学級づくりをすすめていると感じる生徒の割合90pt以上を目指す。	生徒同士、生徒と教師のコミュニケーションを深める。	いじめ・生活アンケートを学期に2回以上実施し、実施後に教育相談を行う。	アンケート実施回数 教育相談実施回数					3	
	互いに励まし合い、高めあうことができていると感じる生徒の割合80pt以上を目指す。	長所や善行を認め、取り上げる学級指導を行う。	毎日の学級活動で取り組む。月1回、自己有用感を高めるための指導を計画的に行う。	アンケート結果					4	
来校者の増加	地域の願いなどの声を聞いて教育活動を行っていると感じる地域・保護者の割合85pt以上を目指す。	学校の情報を積極的に発信し、教育活動に対する関心を高める。	学校・学級だよりを月2回以上発行する。学校HPを月1回以上更新し充実させる。	学校・学級だより 学校HP	<ul style="list-style-type: none"> ・学級だよりは毎週のように発行され、学級の様子を伝えることができている。 ・学校だよりも月に2回発行し、1回は地域へ回覧している。 ・毎月HPを更新できた。 ・ゲストティーチャーの招へい歓迎遠足 数学 総合 栽培(技術)等で支援を受けた。(のべ20名) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・八幡自治会館の広報誌でも学校行事等の紹介をしてくれている。 ・今後、様々な機会を通してゲストティーチャーの支援を受け、学校改善につなげていきたい。 ・特設学校公開デーを実施にあたっては、地域行事との関連に配慮し、保護者や地域の方が参加しやすい体制づくりが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期だけでのべ20名はすごいと思う。子供達に良い影響が出るとよい。 ・学校運営協議会や各種広報活動など、学校の様子が家庭や地域にわかりやすい状態にある。家庭や地域が学校を信頼している。 ・学校だよりを地域に回覧することで学校の様子が知ってもらえて良いと思う。 ・学校だよりは写真も多く行事等の様子がわかりやすい。回覧板をカラーにしてほしい。(予算の関係もあるでしょうが) ・地域行事との調整をうまくやるのが大切。 		
	ゲストティーチャーの招へい 年間のべ50名を目指す。	地域人材を活用した教育活動を積極的に行う。	特設学校公開デーを学期に1回設定し、保護者や地域の方の来校を呼びかける。様々な分野でゲストティーチャーを招へいし、学習支援を受ける。	ゲストティーチャーの招へい数					4	